

第 4 章

北九州市女性リーダー国内研修の取り組みから

久門 正子

1 はじめに

いま、北九州市では社会教育関係施設や関係団体で女性が生き生きと活動している。たとえば、小学校区の拠点施設として、市内の 129 ヶ所に市民センターが整備されているが、その約半数が女性館長。また、女性の社会教育主事・主事補が専門職として配置されている。地域活動においても団体のリーダーとして、女性の活動には目をみはるものがある。

どうして、このように民間の女性の活躍がめざましいのであろうか。

北九州市では、女性リーダー育成事業の 1 つとして「北九州市女性リーダー国内研修」が昭和 38 年度から実施されている。2013 年、北九州市は市制 50 周年を迎えたが、この「北九州市女性リーダー国内研修」も 50 年にわたり、継続されている事業である。

この事業では、市内の女性団体や学習グループ等のリーダーおよび今後リーダーとして活動しようとする意欲のある方が公募選考され、先進都市や国立女性教育会館での研修後、生涯学習・福祉・環境など多岐にわたり、女性のエンパワーメントを活かした活動を展開している。

専業主婦で P T A 活動をしていた筆者自身も平成 2 年度の「北九州市女性リーダー国内研修」に応募したのがきっかけで、生涯学習推進コーディ

ネーター（公民館／市民センターの生涯学習ボランティア）・公民館職員・中央公民館社会教育指導員・公民館（市民センター）館長を経験し、社会教育主事講習受講後、社会教育主事の立場でこの事業を通して女性リーダーの育成に関わることとなった。

筆者は、北九州市教育委員会生涯学習総合センターで、平成18年から23年までの6年間、社会教育主事（18年は、社会教育主事補）の立場で事業全般の企画から実施に携わった。以下では、筆者が平成23年度「北九州市女性リーダー国内研修」の引率としての研修生への関わり、また、平成23年度NWE C交流学習会議の「地域人材の養成の実践事例」で、ご報告した「北九州市女性リーダー国内研修」の取組みをもとに北九州方式を紹介し、「女性リーダーの育成」の成果と課題等について考えてみたい。

2 民間女性の登用に向けて

北九州市の女性はパワフル

平成23年度の生涯学習関係職に占める女性の比率から見ると、専門職として本庁や北九州市の7区等に社会教育主事・主事補が18名配置されているが、18名中16名が女性で88.9%、また、生涯学習・コミュニティ・地域福祉等の拠点施設として小学校区に設置された市民センターの館長は129名中65名が女性で50.1%、そして、市民センターの生涯学習ボランティアである生涯学習推進コーディネーターは69名中66名が女性で95.7%の割合で女性が活動している。また、社会教育関係の団体においても女性が多く参加し、地域リーダーとして活動している。

社会教育関係の団体 *（発足年）

・北九州市婦人団体協議会（S49） 約2.7万人

< 構成団体 > 北九州婦人連絡協議会（S38）

北九州婦人教育研究会（S45） *女性リーダー国内
研修生 OG の団体

II 実践の展開

北九州母の会連絡協議会 (S48)

北九州婦人教育推進会 (S50)

- ・北九州市女性団体連絡会議 (H6) 123 団体 約 5 万人
- ・北九州市男女共同参画地域推進員の会 (H4 ～)

それは、市の職員への民間女性の登用という北九州市の政策に、この後紹介する女性リーダー育成事業である「北九州市女性リーダー国内研修」事業が、うまくかみ合ってきた結果ではないかと思われる。

民間女性の登用

(1)北九州市社会教育指導員設置 (S48)

- ・各中央公民館に、専門職として成人・婦人・青少年・同和教育の指導・相談などを行う非常勤の民間から登用の社会教育指導員配置

(2)(財)北九州市教育文化事業団の設立 (S51)

- ・現職館長から行政 OB・校長 OB による館長などの民間嘱託化

(3)生涯学習ボランティアの養成と公民館職員への嘱託民間女性の登用 (H2)

- ・1990 年代初めの「生涯学習体系への移行」と H 元～H3 の「生涯学習モデル事業の指定」を受け、生涯学習ボランティア養成講座の実施等は生涯学習女性ボランティアの裾野を広げ、公民館事業の活性化に寄与、民間女性の公民館職員への登用に進展

(4)公民館における嘱託常勤民間女性館長の登用 (H2)

- ・公民館の停滞化が進み、人事体制からの活性化を図る目的で、主に各中央公民館の社会教育指導員経験者である民間女性が登用(任期 3 年)

(5)生涯学習推進コーディネーターの配置 (H2) * 月 8 回、1 回あたり 4 時間程度 (H4 から全館配置)

- ・公民館の活性化を図る方策の一つとして、公民館と地域を繋ぐパイプ役として配置

(6)市民福祉センターの開設と女性館長の登用 (H7)

- ・高齢化（福祉）に重点を置いた施策の提起により、地域エリアを小学校校区と定め、公設民営の理念に基づき、管理運営は地元のまちづくり協議会が受託、センター運営は市から派遣の嘱託館長（男女、常勤）と地元採用の有償ボランティア（非常勤）が行う
- ・市民福祉センターの所管は保健福祉局
- ・センター女性館長第1号は勤労婦人センター職員（民間）

(7)北九州市社会教育主事補設置要項施行→社会教育指導員廃止 (H11)

- ・各中央公民館に専門職としての社会教育主事・主事補を各1名配置
- ・このうち、社会教育主事補については、民間女性生涯学習ボランティアから登用

(8)市民福祉センターにおける館長の公募化 (H15)

- ・将来の公設民営化を目指す視点から、一部公募化が進められ、15年度は8名（うち民間登用女性館長は5名）、16年度は9名（5名）、17年度は11名（7名）、18年度は17名（6名）、19年度は16名（6名）が採用 ※平成23年度からは完全公募化

(9)公民館ならびに市民福祉センターを廃止、「市民センター」へ名称変更 (H17.1.1)

- ・公民館と市民福祉センターは、それぞれ設置目的や所管部局が異なっているため、行政の垣根を越えた一体的な支援体制の必要性から一元化
- ・市民センターの所管は市民文化スポーツ局市民センター室

3 北九州市の女性リーダー育成の取組み

北九州市の女性リーダー育成の取組みは、現在の北橋市長の選挙公約にもあるように、「ハートフル北九州 人にやさしく、元気なまちへ」の中で、『女性リーダーの育成事業の実施など、性別に関係なく個性と能力を発揮

II 実践の展開

できる男女共同参画社会の形成に向けた総合的な事業を行います』に基づき、さまざまな女性リーダー養成事業が展開されている。

その一環として、北九州市教育委員会生涯学習総合センターで、「北九州市女性リーダー国内研修事業」が実施されている。この「北九州市女性リーダー国内研修」は、昭和38年「婦人国内研修」としてスタートしたものである。当初、政令指定都市として県とは別枠で国の補助を得て、婦人の代表（婦人団体や婦人学級から推薦された方）を先進都市に派遣し、婦人会活動、婦人の学習活動、婦人対象の教育活動を実地調査していた。

昭和42年から、従来の推薦性から公募性（レポート審査と面接）となり、昭和47年に研修生が「婦人指導者セミナー」を受講したのを契機に、昭和48年から「婦人指導者セミナー」受講が応募資格となった。この「婦人指導者セミナー」の流れは、現在、北九州市民カレッジ「地域力アップセミナー」に受け継がれ、現在も国内研修応募資格となっている。また、昭和55年から（平成5年～平成6年を除き）、研修先に国立女性教育会館が加わっている。平成10年から、「婦人国内研修」から「女性リーダー国内研修」と名称が変更になっている。

(1)市長の選挙公約（H18.10）

「ハートフル北九州 人にやさしく、元気なまちへ」

『女性リーダーの育成事業の実施など、性別に関係なく個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の形成に向けた総合的な事業を行います』

(2)女性リーダー養成事業 方針決定過程へ参画する女性の人材を育成するための各種研修会等の開催

- ・生涯学習総合センター等における地域リーダーの育成を目的とする講座の開催
- ・男女共同参画センターにおける女性リーダーの育成に向けた講座の開催

- ・「女性団体連絡会議」や「男女共同参画地域推進員の会」が主催する広報・啓発集会の活動を通じた地域における女性のリーダーの育成等

(3) 現在の女性リーダー養成の仕組み

名称変更はあるものの、昭和43年からスタートした「婦人（教育）指導者セミナー」からの流れの講座を養成講座と位置づけ、まちづくり団体・女性団体・市民団体・PTA・子ども会等関係者／市民センター職員／生涯学習推進コーディネーターなど延べ2,000人が受講している。また、「地域活動参画セミナー」と名称変更されてからは、まちづくり・地域づくりに関心のある男性も受講している。

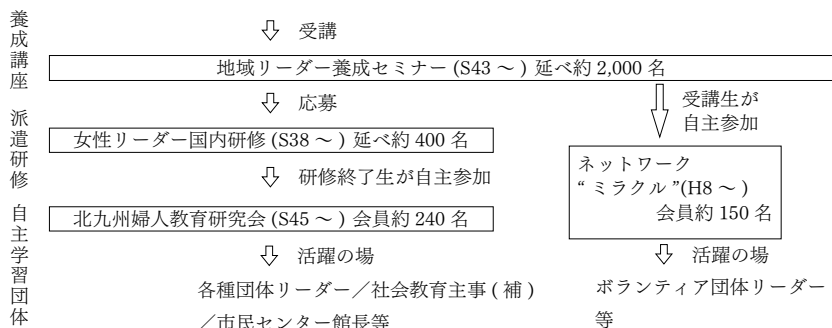
この「北九州市女性リーダー国内研修」は、派遣研修として位置づけられ、昭和38年から延べ約400名が公募選考され、国立女性教育会館や先進他都市に派遣され、スキルアップを図っている。

これらの研修生は、昭和45年に発足した研修生OGによる自主学習団体「北九州婦人教育研究会」（北九州婦人教育研究会については、後述）の会員として、継続的な学習を行うことで自己研鑽を図るとともに市民センター館長公募試験等にチャレンジして、生涯学習・福祉・環境など多岐にわたる女性のエンパワーメントを活かした活動を展開している。

また一方、養成講座の受講生が、受講年度毎に自主学習グループを結成し、『ネットワーク“ミラクル”』として、グループごとの連携を図りながら、地域等で活躍している。

II 実践の展開

まちづくり団体・女性団体・市民団体・PTA・子ども会等関係者／市民センター職員
／生涯学習推進コーディネーター等



4 北九州市女性リーダー国内研修

沿革

昭和 38 年「婦人国内研修」としてスタート

政令指定都市として県とは別枠で国より補助(～ S42)

婦人の代表(婦人団体・婦人学級推薦)を先進都市に派遣

婦人会活動、婦人の学習活動、婦人対象の教育活動を実地調査

昭和 42 年 従来の推薦性から公募性(レポート審査と面接)とする

昭和 47 年 研修生が「婦人指導者セミナー」を受講

S43「婦人(教育)指導者セミナー」がスタート

S47「婦人教育指導者研修」と総称

H10「女性リーダー養成セミナー」と名称変更

* H15 北九州市民カレッジ

(まちづくり・人材育成系コース)に位置づけ

H16「地域活動参画セミナー」と名称変更

H19「地域リーダー養成セミナー」と名称変更

H23「地域力アップセミナー」と名称変更

昭和48年「婦人指導者セミナー」受講を応募資格とする

昭和55年 研修先に国立女性教育会館が加わる(H5～H6除く)

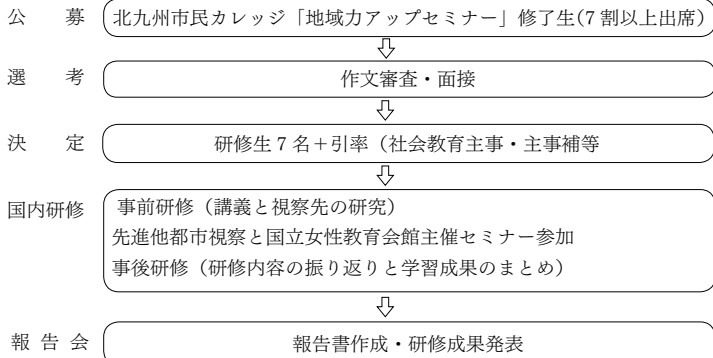
平成10年「女性リーダー国内研修」と名称変更

事業の流れ

応募資格該当者から公募、作文審査・面接により選考、そして、研修生が決定された後、北九州市の「まちづくり」「生涯学習の現状と課題」「人権教育の取組み」「男女共同参画社会形成の推進」「子育て支援の取組み」等を事前研修するとともに、引率の社会教育主事・主事補等の指導・助言に基づき、先進他都市の研修先を決定、研修テーマを研修生自らが設定して研修に臨んでいる。

研修後は、事後研修として研修内容の振り返りと学習成果のまとめとして、報告書を作成し、「国内研修報告会」を実施している。

研修生は、派遣先での研修もさることながら、事後研修での報告書作成、報告会を実施するために、研修内容を振り返り、研修成果をきちんと自分のものとして報告会に臨めるように何度も集まって話し合いを重ねている。そうすることでよりメンバーのきずなが一層深まり、スキルアップができているように思われる。



5 北九州婦人教育研究会

概要と活動理念

「国内研修生としての誇りと感激をこの場限りにしたくない」と、昭和42年～44年研修生による設立準備を経て、昭和45年4月30日に自主研修団体として設立。研修の成果を活かし、女性の社会参加の促進、男女共同参画の実現とまちづくりの活性化を目指し、学習活動を行っている。会員は、「女性リーダー国内研修」参加者で構成され、現在の会員数は234名である。初代会長には安藤アサ子氏が、続いて大庭節子、浜崎いつ子、岡田黎子、現在は鶴田伶子の各氏が会長として就任している。

主な活動内容は、学習目標として「共に生き、共に創る社会を考え行動するために」を定め、市立婦人会館を活動拠点に、月例学習・調査研究・公開講座・広報活動など生涯学習事業を展開している。

毎年、新しい国内研修生を受け入れ、発足以来、一度も欠かすことなく、年間テーマを定め、月1回の定例研修会を続けている。広報活動として、会報「北婦研ニュース」を年3回発行。平成3年創刊号～68号（平成25年7月現在）。

また、昭和48年に北九州市教育委員会から社会教育関係団体と認定され、他団体との連携活動も行っている。

平成24年、設立45周年を迎えた。45年間に及ぶ学習成果は生涯学習・福祉・環境等に活かし実践されているが、今後、生涯学習社会の実現とコミュニティに根をおろす活動を目指し、更なる歩みを願い活動していきたい。

「振り返れば未来」 会員の活動実態に関する調査報告書

北九州婦人教育研究会は、昭和42年、公募による北九州市教育委員会主催の国内研修参加者が自主学習団体として設立。その間、時代に即応し

たテーマや、会および会員の資質向上のためのさまざまな分野の学習活動を展開、継続している。このような学習団体は、全国的にみても数少なく国内でも高く評価されている。

設立に関わった先輩たちの熱い想いを引き継ぎ、人材豊かな団体として会員の活動も多岐にわたり活発である。

この「会員の活動実態に関する調査」は、「振り返れば未来」をキーワードに、国内研修参加後の会員の個々の活動の足跡をたどり、さらなるステップアップをめざし、会員一人ひとりがどのような場でどのように活動し、自己研鑽を積み重ね社会参画を果たしてきたかを検証することを目的に実施された。

調査の企画と経緯については、北婦研 40 周年記念講演会で、元国立女性教育会館館長大野曜氏より、全国の学習団体との連携を示唆され、さらに平成 20 年度公開講座において前国立女性教育会館理事長神田道子氏により「男女共同参画を推進する視点とは」の講義を受け、行動開始となる。

平成 20 年 10 月 1 日に全会員に調査票を郵送し、11 月初旬からデータ入力開始、データ分析、報告書作成準備。

平成 21 年 2 月 14 日開催の国立女性教育会館「交流学习会議」で調査の中間報告を行い、平成 21 年 3 月に報告書発行、21 年度総会において全会員に配布した。

調査にあたって、個人の属性、国内研修の参加前、研修中そして研修後の変化、将来の希望、期待を設定した。

女性リーダー国内研修生から多くの人材を輩出

会員の継続学習の成果はその後の意識の変化、行動や活動の変化に反映されていた。その分野は社会教育・生涯学習の場、学校教育、人権教育、国際交流活動、育児介護の分野、経営事業主等で、活動、職歴、委員歴も多岐にわたっている。

現北九州婦人教育研究会会員から算出

II 実践の展開

社会教育主事・主事補 延べ 77 名（現職 14 名）

市民センター（公民館 改称）館長 延べ 81 名（現職 40 名）

北九州市の女性の行政職としての管理職民間登用第 1 号

昭和 57 年広聴課長 三隅佳子氏（現：財団法人アジア女性交流・
研究フォーラム顧問）

中学校教諭、子育て、P T A 活動を経て、S52 女性リーダー
国内研修に参加、その後 3 年間小倉南区の社会教育指導員
（現：社会教育主事補）、S57 広聴課長、S58 婦人対策室長、
H2 市民局女性行政推進部長、H7 北九州市立男女共同参画セ
ンター所長（～ H15.3 月）

関係団体の長（現職）

北九州市婦人団体協議会（S59 研修生）

北九州婦人会連絡協議会（S59 研修生）

北九州婦人教育研究会（S60 研修生）

北九州市女性団体連絡会議（S60 研修生）

北九州市男女共同参画地域推進員の会（H5 研修生）

6 おわりに

このように「北九州市女性リーダー国内研修」事業は、多くの人材を輩出するための 1 つの登竜門と位置づけられ、定着している。

今のパワフルな北九州市の女性たちは、先輩たちが切り開いてくださった民間女性登用の道を後に続く人たちにきちんとつなげていくためにお互いにネットワークをとり、切磋琢磨しながら、女性のエンパワーメントを活かした活動を展開している。

毎年、国内研修へ応募してくる研修生が研修の成果をそれぞれの地域で活かし、また、さらに次の研修生につないでいく。その気持ちは、ずうっ

と先輩の研修生OG会「北九州婦人教育研究会」から受け継がれている。

そして、北九州市では、市民の力を行政が支え、公害を克服したように、官民一体となって取組む土壌があり、民間女性でもチャレンジすれば活躍できるしるみを長い時間をかけてつないできた女性のパワーがこの事業の根底にあると思う。

『平成23年度 北九州市女性リーダー国内研修報告書』から抜粋

編集後記

ヌエックの森で拾ったアメリカフーの落ち葉を手にとると、大きく誇らしげに建つ国立女性教育会館研修棟を思い出します。

昨年3月11日、ヌエック講堂で交流学习会議の最中に震度5強の地震が発生しました。二波、三波と大きな揺れが続いた中、講師や参加者の冷静な対応と、茶碗ひとつ割れなかったという施設に守られ、恐怖の中においても大きな混乱はなかったそうです。

それから8ヵ月後、私たちが国内研修に訪れた際には、ヌエックを避難所として宿泊されている被災者の家族連れの姿をお見かけしました。

ヌエックの威厳のある姿、そして懐の深さに心を揺さぶられた気がします。

私たち研修生7名は、時折笑顔で振り返りつつも道標を示すべく先頭を行く久門主事の背中を追いかけて、私たちが歩く最後尾には、いつも羽を広げて包み込むように見守ってくださっている篠原主事の方が存在があり、おかげで安心して国内研修という大きな学びの場でたくさんの貴重な体験をさせていただくことができました。お二人のサポートに深く感謝しています。

みんな昔からの友だちのように仲良くなり、研修室はいつもほんわかと暖かい雰囲気の中で心地よかったです。研修を終えて、少しずつ成長できたような私たちは、これからも共に学び続けていきたいと思っています。

「あい・ぼーと」から持ち帰ったハーブを挿し木すると、小さな根がつかまりました。

その小さな命を育てるように、国内研修で一人ひとりが得たものを糧に北九州の地に根ざした活動を続けていこうと思います。

II 実践の展開

これからこの素晴らしい国内研修で多くの女性たちが出会い、学ぶ喜びを味わうことができますように。

私たちが国内研修に参加させていただくにあたって、ご支援、ご協力いただいたすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成 23 年度 北九州市女性リーダー国内研修生一同



「男女共同参画の木」自然のつながりの力に感動！



らんざん交流ウィークプログラム「押し葉の作品づくり」 どうですか？
私たちの押し葉作品！

引用文献

久門正子 2011『学びを活かすために ここからスタート—「北九州市女性リーダー国内研修」の取組みから』平成 23 年度 交流学習会議 分科会 H「地域人材の養成の実践事例」報告資料

北九州婦人教育研究会 2009「振り返れば未来—会員の活動実態に関する調査報告書」

北九州市立生涯学習総合センター広報紙「まいなび 2 1」2009 年 7 月 1 日発行第 22 号

2011「平成 23 年度 北九州市女性リーダー国内研修報告書」

（くもん・まさこ 北九州婦人教育研究会／前北九州市教育委員会 社会教育主事）